

5/8 感謝の気持ちを込めて清掃

河合町稲越の飛騨かわいスキー場で市内のスポーツ少年団の団員とスキークラブ社会人らが、日頃の感謝の気持ちを込めて清掃奉仕活動を行いました。

この活動は、平成19年から継続して行われており、今回で14回目の開催となります。

この日、清掃をしたのは「かわいスキージュニア」「古川スキージュニア」「市陸上スポーツ少年団」の小学1年生から6年生までの団員と保護者、社会人でつくる「かわいスキークラブ」のメンバーの計93人。

参加者らは、広大なグレンデヤやロッジ周辺、市道かわいスキー場線などを、日頃の感謝の気持ちを込めながらごみを拾い集めました。今回は、ペットボトルや空き缶など約22キログラムのごみを回収しました。



5/10 「飛騨市体育協会」から「飛騨市スポーツ協会」へ体制一新してスポーツ振興を図る

組織の見直しを行ってきた飛騨市体育協会がこのほど、新たに「飛騨市スポーツ協会」と名称を変更して体制を一新することを決定し、設立総会を開催しました。

旧町村にあった支部ごとに活動する体制から、市内の各種競技団体が新協会へ加盟して活動する体制へと変更しました。また、地域ごとの固有のスポーツ文化を継続支援する地域事業やスポーツ少年団・中体連などを支援する次世代育成事業にも力を入れます。

総会では協会規約や役員の選出、基本方針、事業計画や予算などが議決されました。会長には堀辺明子さんが選出され、「旧体育協会と違う点は、加盟団体の皆さんと協議し、連携しながら皆でつくっていくところ。ご協力をいただき、素晴らしい飛騨市スポーツ協会となるよう頑張っていきます」と話しました。



5/11 市災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定を締結と市社協がボランティア受け入れの役割を明確化

市は、地震や水害などで大規模な災害が発生した場合、地域の復旧・復興を支援してくれる災害ボランティアの受け入れの中核となる「災害ボランティアセンター」の設置等に関する協定を飛騨市社会福祉協議会と結びました。

災害時の対応については、これまでも協力関係はありましたが、ボランティア要請などについての取り決めはなく、役割分担も明確ではなかったため、今回の協定締結に至りました。市が設置場所の確保や人員の派遣、被災者ニーズの把握、必要経費の支出を担い、市社協がボランティアの受け入れや活動調整、資機材の準備などを担うことを明確にしました。市社協の竹本一久会長は「昔は『災害は忘れたころにやってくる』だったが、最近は『いつでも災害はやってくる』。備えを十分にやっておかなければ」と話しました。



5/11 古川町の重田さんと清水さんへ消防長から感謝状を贈呈

迅速な消火活動で燃え広がる枯れ葉などを消し止めたとして、消防本部は、古川町の重田裕之さんと清水廣通さんに感謝状を贈りました。

2人は4月20日の夕方、同町中野で、焼却中の枯れ葉から草地に火が燃え広がっている現場に駆け付け、近くの消火栓にホースをつないで消火活動を行い、草などに約5分間放水し、延焼を防ぎました。

清水さんは「家の窓から煙が見えた。ただごとではないと思い、とっさに車に向かって」と語りました。重田さんは「近所の女性から助けを求められ、すぐに消火栓にホースをつないだ」と振り返りました。

中畑和也消防長は「迅速な119番通報と初期消火をしていただきとてもありがたい」と感謝しました。





飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。



まちの話題 いろいろ

5/19

心に響くみんなへのギフト



プロ道化師「Clown Toka (クラウン トカ)」として活動する河合町の岡崎賢一郎さんが宮川小学校を訪れ、全校児童8人にパフォーマンスを披露しました。

この特別授業は、児童たちの「小学校にぜひ来てほしい！会ってお話をしたい！」という要望で実現しました。

岡崎さんは、ジャグリングや軽妙な動きを児童と掛け合いながら進めていき、児童たちは岡崎さんの予測不能な動きに釘付け！短い時間でしたが、笑いがあふれ、みんな口々に「楽しかった！また来てほしい！」などと話していました。

教室では、岡崎さんがこれまでの歩みを語り「これから、沢山の人の人に出会って、自分のギフト（役割）を大事にして、周りのみんなに助けてもらいながら夢を叶えていってほしい。頑張って！」とエールでしめくられました。



5/24

避難所運営や市民の防災意識の向上に向けて連携

市は、飛騨市防災士会（柚原孝志会長、会員119人）と災害時の支援活動や市民への防災啓発活動に関する協定を締結しました。

同会は平成31年に結成され、これまで「赤ちゃん防災講座」や小中学校での防災授業などを実施。また、飛騨市防災リーダー養成講座も継続して開催し、防災士の資格を取得した市民が現在202人いらっしゃいます。

今回の協定は、自然災害が発生した場合、同会メンバーが避難所運営の支援などを行う他、平時には防災意識の向上や知識の普及などの活動を行うものです。

都竹市長は「いろいろな形で知識の習得やレベルアップ、実践につなげられる能力を身につけていただくような活動をお願いしたい」とあいさつ。柚原会長は「避難所運営をバックアップできるような組織にしていきたい」と話しました。



5/28

2027年の実験開始めざすハイパーカミオカンデ計画のトンネル掘削はじまる

©ハイパーカミオカンデ研究グループ提供

神岡町内の山中に建設予定の東京大学宇宙線研究所「ハイパーカミオカンデ」のトンネル掘削工事が5月6日に始まり、着工記念式典が現地で開かれました。

同施設は「ニュートリノ振動研究」「ニュートリノ天文学」「陽子崩壊探索」の3つを目的に建設されるもので、検出部分はスーパーカミオカンデの10倍規模、従来の2倍の感度を誇る高性能光センサー約4万本を備えています。

式典に出席した同研究所の梶田隆章所長は「構想から20年以上経った極めて重要な計画を、日本がホスト国としてやれる事は素晴らしい。今後も着実に建設を進め、良い成果がどんどん出てほしい」、同じく塩澤真人教授は「計画通りに装置の性能をしっかり出すことが大事で、良い成果を出したい。観測データを早く見られることを心待ちにしています」と話していました。



ハイパーカミオカンデ 着工記念式典
Hyper-Kamiokande Groundbreaking Ceremony

5/28

宮城保育園で苗の植え付け体験 トマト名人のミニトマトをみんなで育てましょう



食育事業の一環として、宮城保育園の園児たちに苗の植え付けを体験してもらいました。市内で作られた農産物のおいしさ、食の大切さなどを知ってもらう食育事業の一環です。古川町畦畑のトマト生産者・坪根邦一さんを講師に年長児23人が参加しました。

坪根さんは「トマトは栄養がたくさん詰まった野菜です。おいしいトマトをたくさん作りましょう」とあいさつ。この後、園児たちは保育士らの手を借りながらひとり1個ずつ渡されたポットの土に穴を掘り、お気に入りの苗を植えて、水遣りや支柱の立て方を教えてもらいました。

園児たちは「がんばって育てるぞ」「大きくなってね♪」と笑顔を見せ、坪根さんも「1鉢に100個くらい生らせましょう」と声を掛けていました。

